

News Letter

2023年

5月

中国四国農政局
愛媛県拠点

八幡浜のかんきつ農業法人が新しく加工場を稼働

八幡浜市にある、かんきつ類を生産・販売する農業生産法人株式会社ミヤモトオレンジガーデンでは、新たな加工場を3月中旬から稼働しました。

同社は、これまで外注に頼っていた加工品の製造を自社製造に切り替えて製造コストを抑え、今後は他の生産者の加工も請け負うことにより、かんきつ産業の6次産業化に向けた中核になっていきたいと考えています。

新加工場では、加工に必要な釜や殺菌庫のほか、加工原料のかんきつを貯蔵する冷蔵・冷凍庫も備えています。



新しい加工場

これまで、主力のゼリーを中心に製造の9割を外注していましたが、新加工場の稼働により通年製造ができるようになり、全国の百貨店や高級スーパー、食料品専門店などで販売されます。

同社では将来の増産を見据え、製造能力も外注時に比べ数倍に高めており、加工品の売上比率も現状の3割から5割に引き上げる目標を立てています。

また、製造能力の引上げを生かして、今後は、食品メーカーでは受入れできない小規模な個人農



加工品の原材料となるかんきつ類
(写真提供：ミヤモトオレンジガーデン)

家単位（ロット）を受入れし、加工品を製造することを考えており、個人農家が6次産業化を始めるきっかけになればと考えています。

八幡浜市はかんきつ生産の一大産地ですが、みかん作りは得意でも加工品の製造・販売まで手掛ける農家は少数です。

同社の宮本泰邦社長は「かんきつ産業のイノベーターとして、地域で生産から加工まで手掛けられるようにしていきたい。」と話されています。

農家が付加価値の高いかんきつ加工品を製造・販売し収益力が上がれば、地域のかんきつ産業の基盤強化につながります。少子高齢化の影響で地方における人手不足が顕著な中、新たな担い手を迎え入れる可能性も秘めています。



新しい加工場で製造される製品
(写真提供：ミヤモトオレンジガーデン)

インフォメーション

知らない野草、山菜は採らない、食べない！

例年、春先から初夏にかけて、有毒な成分を含む植物を、食べても安全な山菜や野草と間違っ
て食べてしまうことによる食中毒が数多く起きています。

山菜や野草は素晴らしい大地の恵みですが、天然、自然のものが何でも食べて安全なわけでは
ありません。植物の中には、動物や昆虫に食べられないように、有毒な成分を自ら作るものがあ
ります。人間がそのような植物を誤ってある程度以上の量を食べてしまうと、重症になったり、
死に至ることもあります。

そのような食中毒を防止するため、農林水産省では消費者、生産者の皆様にご活用いただける
ようリーフレットを作成しておりますので、是非ともご覧いただきますようお願いいたします。

野菜・山菜とそれに似た有毒植物 No.01

ニラ



ニラの花



ニラの種子



栽培管理されたニラ

- 日本では古くから栽培されており、河川敷等に野生種も存在。
- 旬は春で、現在流通するものほとんどは、葉の幅が広く、肉厚の大葉種。これに加えて、夏には小ぶりでも暑さに強い在来種の小葉種も出回る。
- 夏には葉の間から30-40 cmほどの花茎を伸ばし、白い小さな花を半球形につける。実が熟すと割れて黒色の種子が落ちる。
- 多年草で、刈り取った後の株から再び新葉が伸びるので、年数回の収穫が可能。
- 葉はニラ独特の強い臭い。

葉の中央部から先端にかけて厚さが薄くなり、中央部から先端の断面は扁平。(下図参照)



ニラとスイセンの断面比較

- 毒・花を摘むか、種子をこぼれ落ちる前に採取し、野生化したニラが園芸植物等と混じるのを防ぐ。



家庭菜園でニラ(左奥)が野生化して、スイセン(右手前、有毒)と混ってしまった例

【間違えやすい有毒植物】
スイセン、スノーフレーク(スズランスイセン)、キツネノカミソリ、ゼフィランサス(タマズダレ)など

農林水産省

ニラと間違えやすい有毒植物

スイセン類

- 多くの園芸種があり、全国で観賞植物として栽培。日本の暖地の海岸線近くには、野生化したニホンスイセンが野生。
- 品種、環境によるが、冬から春にかけて白や黄色の花を咲かせ、背丈は15-50 cm程度。
- 茎は黒又は茶色の外皮に包まれた髄部の内部。葉は、若干厚みがあり、中央部がへこみ、断面はV字型。
- 猛毒のアルカロイドやシュウ酸カルシウムを含む。



園芸種のツバスイセン | スイセンとニラの比較

スノーフレーク(和名:スズランスイセン)

- 春咲きの観賞植物で、花がスズラン、葉がスイセンに似る。背丈は30-50 cm程度。白い花びらの先端に緑色の斑点。
- スイセン類と同様のアルカロイドを含む。



スノーフレークの花

キツネノカミソリ

- 本州以南の野山に自生し、春に鱗茎から30-40 cmの帯状の葉をつけるが夏には枯れ、その後30-50 cmの花茎を伸ばし、致に黄赤色の花をつける。
- スイセン類と同様のアルカロイドを含む。



キツネノカミソリの花

ゼフィランサス(和名:タマズダレ)

- 夏咲きの観賞植物で、春から秋に鱗茎から20-30 cmの帯状の葉を伸ばす。夏頃に花茎を伸ばし、品種により白、桃色、黄色等の花を上向きにつける。
- スイセン類と同様のアルカロイドを含む。



ゼフィランサスの葉と花

見分け方の主なポイント

- ニラの葉には特有の臭いがあるが、スイセン等の葉にはニラ臭はない。
- ニラの葉の先端は薄く断面は扁平であるが、スイセンの葉は先端まで厚みがあり、断面は中央部がへこんだV字型である。
- それぞれ異なる花をつけるので、開花期に栽培場所、自生箇所を確認する。(農地、菜園では野菜類と園芸植物は明確に区分、識別しておくこと。)

© 農林水産省

詳しくはこちらをご覧ください。(農林水産省ホームページ)

<https://www.maff.go.jp/j/syuan/nouan/rinsanbutsu/leaflet.html>

令和5年春の農作業安全確認運動について

近年、農業就業人口が減少する中、農作業死亡事故者数は年間 300 人前後で推移している状況であることから、事故件数を減少させることが喫緊の課題となっており、農作業における安全対策の強化を図る必要があります。

このため、春作業が行われる3~5月を重点期間として、全国の関係機関の協力の下、春の農作業安全確認運動を実施いたします。

※重点推進テーマ『徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策』

【事故防止対策】

- ・ほ場周辺の危険箇所の確認・危険回避行動の実践
- ・危険箇所の改善

詳しくはこちらをご覧ください。(農林水産省ホームページ)

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/anzen/



◎「News Letter」は、原則奇数月に発行しています。

編集:中国四国農政局 愛媛県拠点

〒790-8519 松山市宮田町188番地 松山地方合同庁舎

TEL (089)932-1177(代)

<農政局HP>

<https://www.maff.go.jp/chushi/>

◆ニューズレターに関するアンケートにご協力ください。<https://www.contactus.maff.go.jp/j/chushi/form/nl180401.html>